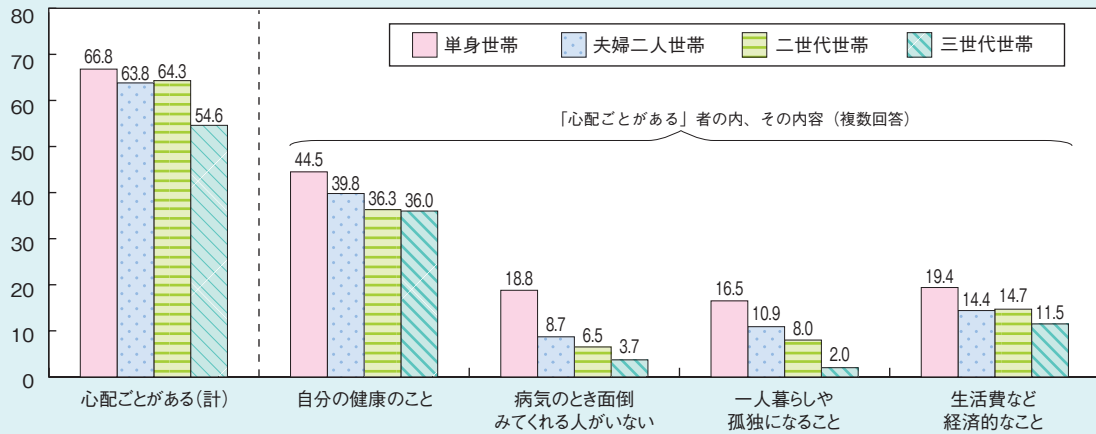
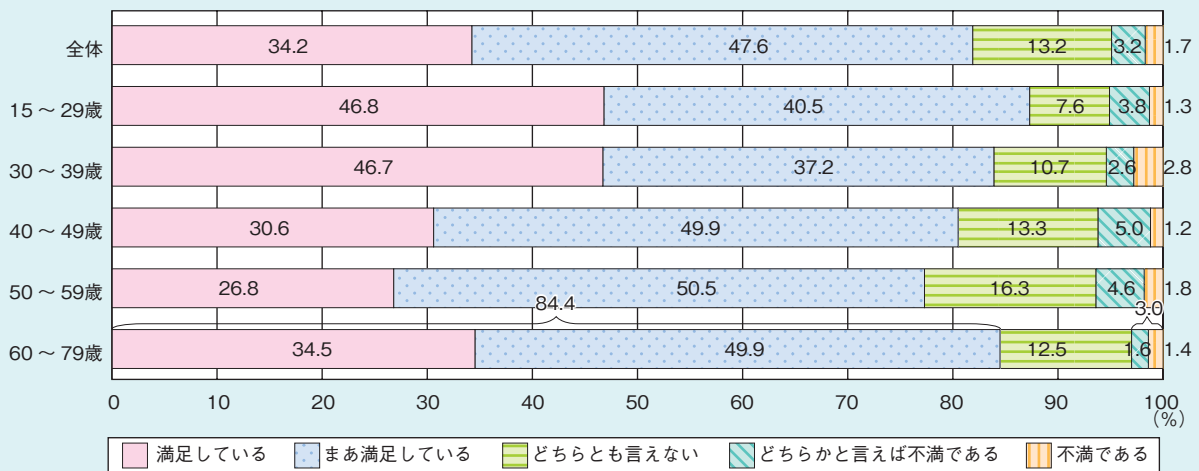


図1-2-1-11 同居形態別にみた心配ごとや悩みごと



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成20年)  
 (注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-1-12 年齢階級別の夫婦関係の満足度



資料：内閣府「国民生活選好度調査」(平成18年)

#### (4) 高齢者の夫婦関係の満足度は高い

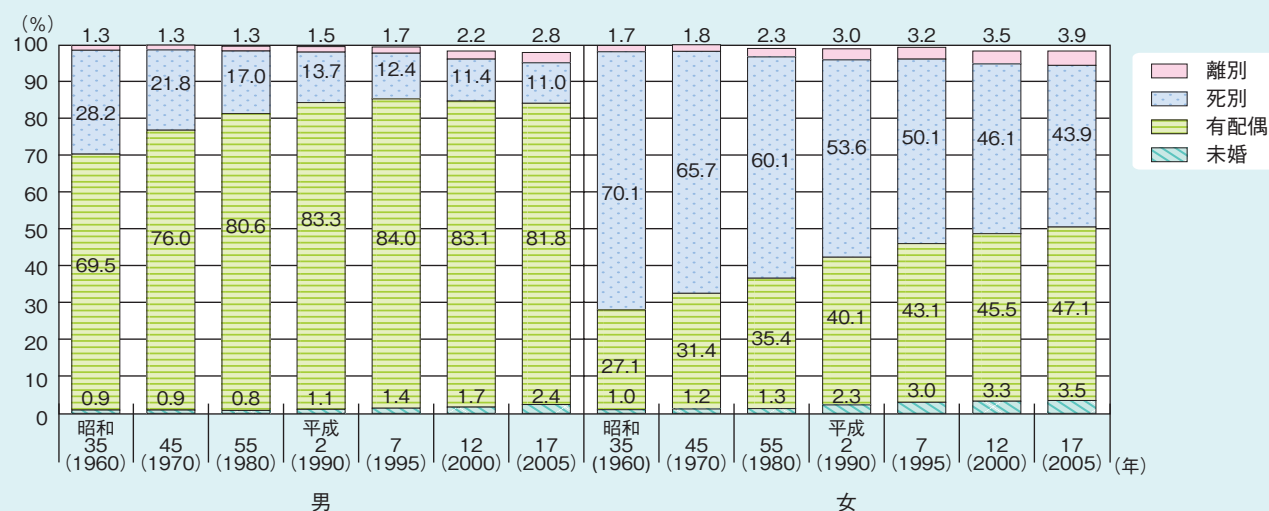
三世帯世帯の割合が低下する中で、夫婦のみの世帯で暮らす高齢者が増加している。

以下では高齢者の夫婦関係についてみてみよう。夫婦関係の満足度を尋ねたところ、60~79歳の高齢者において、満足している(「満足している」と「まあ満足している」の合計)と回答した人の割合が84.4%となっている一方、不満である(「不満である」と「どちらかと言えば不満である」の合計)と回答した人は3.0%にとどまっている(図1-2-1-12)。

#### (5) 配偶者の有無をみると、配偶者と死別した割合は女性が男性の4倍にのぼる

65歳以上の高齢者の配偶関係についてみると、平成17(2005)年における有配偶率は、男性81.8%に対し、女性は47.1%である。女性高齢者の約2人に1人が配偶者なしとなっているが、その割合は低下傾向にある。また、未婚率は、男性2.4%、女性3.5%、離別率は男性2.8%、女性3.9%と共に上昇傾向となっている(図1-2-1-13)。

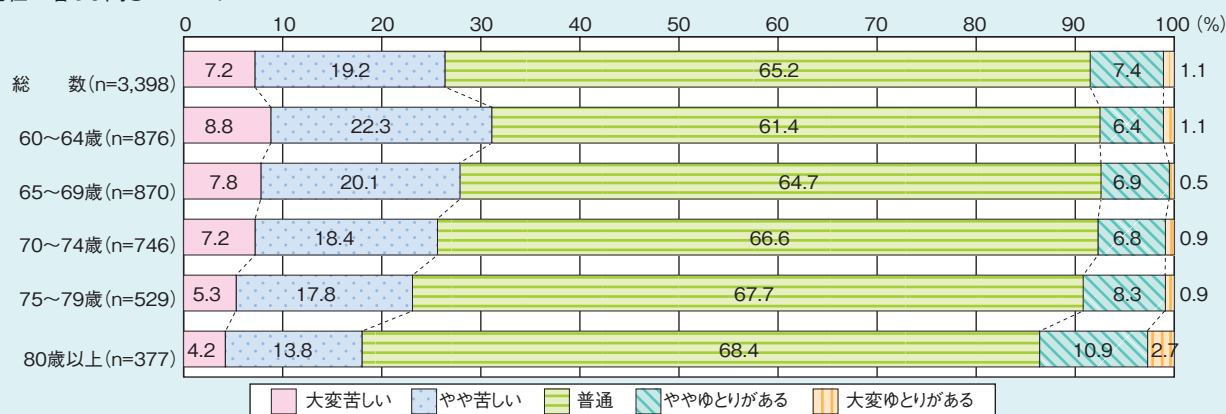
図1-2-1-13 配偶関係別にみた高齢者の割合



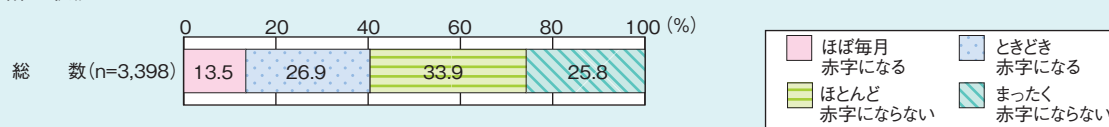
資料：総務省「国勢調査」  
 (注)「配偶関係不詳」は省略した。

図1-2-2-1 高齢者の暮らし向き

①現在の暮らし向きについて



②家計の状況について



資料：内閣府「生活実態に関する調査」(平成20年)  
 (注)調査対象は、全国60歳以上の男女

## 2 高齢者の経済状況

(1) 暮らし向きについて、高齢になるほど苦しいと感じている高齢者は減少

高齢者の暮らし向きについてみると、「苦しい」(「大変苦しい」と「やや苦しい」の計)と感じている者の割合は全体で26.4%であり、高齢になるほど「苦しい」と感じる人は減少する。

また、家計の状況を見ると「赤字になる(「ほ

ぼ毎月赤字になる」と「ときどき赤字になる」の計)」と回答した者の割合も約4割(40.4%)であった(図1-2-2-1)。

(2) 高齢者世帯は、世帯人員一人当たりの年間所得が全世帯平均と大きな差はなく、6割の世帯は所得が公的年金・恩給のみ

高齢者世帯(65歳以上の者のみで構成するか、又はこれに18歳未満の未婚の者が加わった世